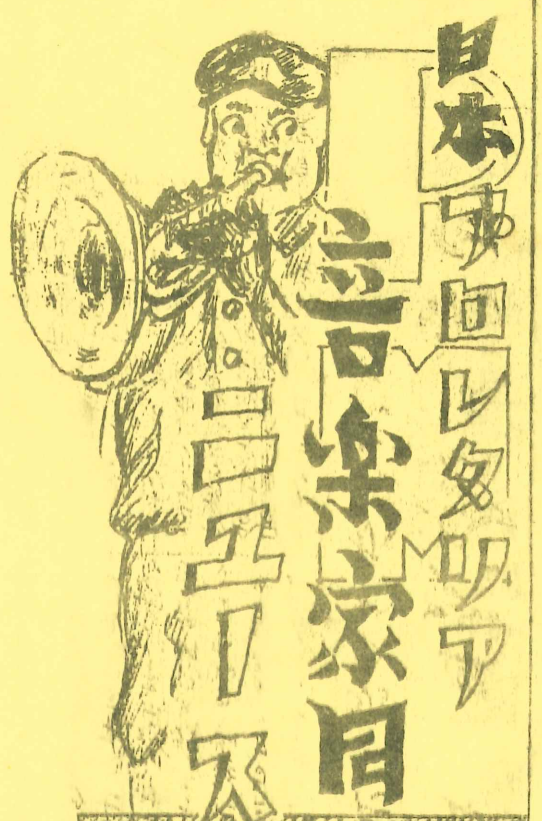

no.12. P.M ニユース. 1931.8.26 発行.

日本プロレタリア音楽家同盟ニユース

東京市外上落合460
日本プロレタリア音楽家同盟発行

新方針にしたがって更に前進せよ！

全同盟員研究生諸君！

我々は再建以来約一年半の間、幾多の苦しい経験を積んでナップ他同盟と翼を揃へて前進して来た。勿論協議会及び他同盟の力にまつところが多かったけれども、全同盟員のたゆまざる努力が最大の原動力となって前進をしたのだ。此の一年間の発展は力の割合弱いのに相当の成績をあげてゐる。同盟一般的諸活動報告の中にも述べてある様に質的には大きな発展の跡を見せてゐるけれども量的には残念ながら余り好成績をあげてゐない。然しながら我々はその中から絶えざる日常闘争の間に、本年度に於ける我々の活動方針を定めるべく我々の第一回大会をまちながらも持つ事が出来たのは、全く全同盟員研究生諸君の力がプロレタリア音楽運動に対する正しい見解と燃え出づる熱意によるものである。そして更にこの大会に於いて一九三一年度の新なる活動方針が打ち樹てられて我々はまさに実践にうつしつゝあるのだ。この方針は昨年度に於ける活動の最も正しき批判にもとづいて、昨年度の我々の活動を更に更に正しく前進せしむるもので言ふまでもなく我々の活動の全ての我々の行くべき方向を示してゐるのである。

用意はいゝか、果敢であった昨年度の闘争を新たなる方針にしたがって更に前進せしめよ。我々の打ちたてた方針を直ちに実践にうつせ。

第一回大会は如何にたたかいぬかれたか！

数少ないメンバーで次々とおこる日常闘争のために延期の止むなきにあった我がP.M第一回大会は、遂に予定通り去る七月廿五日、四谷旭町の二葉保育園に於て盛大に行はれた。

当日の出席者は同盟員は十八名、傍聴者は約五十名、最後まで熱心な傍聴者の拍手が聞えた。会場はさゝやかなものであるが同会前から全員準備にすでに熱気を見せ[illegible]予定の五時半を過ぎ司会者[illegible]開会の辞に日本プロレタリア音楽家同盟第一回大会の幕は切って落とされ直ちに議長に作家同盟のP.Mと縁の深い鹿地亘氏を、副議長に同じく猪野省三氏を推選、議事に入る。先づ大会成立するや審査のため資格審査委員を挙げてその審査にうつる。その間議場に於いては友誼団体の地方からの祝辞、メッセージの朗読がある。ナップ他同盟からプロキノ、プロットを始め演芸団ナップ移動隊の代表P.E.U、反宗教闘争同盟、ナップ中央協議会、作家同盟、此の演奏から血まよった中止が続く、第二に戦旗、劇同盟、プロレタリア詩人会、××労働者音楽同、農民闘争社、[illegible]合、関東消費組合[illegible]同盟等からあった。資格審査委員の報告あり出場の加入員に依り成立と認められる。

同盟一般的活動報告(山本)あり、随時討論に入る。メーデー音楽会に就て意見が出で単に不成功に終ったのみでなく、メーデー音楽会によって、企業の中に根を下してゐなかったのが不成功の[illegible]と言ふことも あると批判から知り得た点で成功[illegible]

再び戦旗社と新興教育研究所からのメッセーヂ朗読。

合唱班報告(関)。報告のおはり頃注意二回、遂に中止さる。後を継いで説明せんとすれば又中止。残り少いので[illegible]討論にうつる。不許可の為[illegible]の調書止めの場合の方法等の責任問題。

器楽班報告(福田)。[illegible]主義的傾向や、メンバの少い事や、技術のヨワイ事や[illegible]ますます[illegible]に編曲演奏する事によって[illegible]大衆化が行はれる。その他もっと技術を獲得すべきである。[illegible]表って承認。

作曲班報告(守田)。

P.Mの基礎を工場.農村へ、！

草案が間に合はなくてプリントになってゐない、それが委員より報告がなされた。そして最後に作曲活動がどんなに重要性を持ってゐるか、同盟はこの作曲活動の上に重い任務を負はす。本年度の活動に於て歴史的價値性を示す様な作品を生産すると結ぶ。同伴者に対する働きかけに就いて質問あり、その他前年度の不振に対して音楽教育について、その意見、器楽曲の組織的生産、移動活動への参加等数多くの希望意見がのべられた。承認。

何をどう感ちがひしてか臨官は質問者に対してまでも中止を食はせ横暴ぶりを発揮し抗議に行った委員長も検束するなど万場は余りの無茶加減に呆然とした程である。議長交代、組織部報告にうつる。(福田)。組織部としては日が浅くある為今后の同盟の重要な役割を背負った部門であり活潑な討論が行はれた。P.M組織の拡大、影響の拡大等に対して新中央委員会は直に具体策を練る事。組織上の方針の確立、サークルの問題等慎重に審議しなければならない。特にプロレタリア音楽研究所の設置は同伴者獲得と同時に、ますます力の貯水池として特に強調された。次に移動活動の報告(福田)。今まで非常に重要視されて續けられて来た移動活動の報告あり、今まで不充分であった点に就て意見が出された、即ち今までの様に仕事のやりっぱなしではならない、活動の後を必ず何らかの形で調査連絡組織しなければばならない。やがてはサークルにまで発展せしめ、又今后の活動のため生かさなければならない。これで報告をおはって時間が少ないので直ちに議事に入る。

一九三一年度同盟一般活動方針の審議にうつる。P.M強化委員の森谷氏の説明あり討論に入る。先づ楽観的状勢に於て積極的な思想的反動音楽の現勢の認めあり、昨年度のおかした活動の批判、それから生れいづる今年度の方針は才一企業内に於ける音楽サークルの組織を積極的に押し進める事である。そしてそれによって徹頭すP.Mの組織に労働者的基礎を与へ得るのである。次に農村に対する調査、生産の努力がある、その他国際的又は進歩的音楽家の調査、それによる海外の豊富な経験の摂取、小ブルヂョア音楽家への働きかけ、及今まで活潑でなかった理論的活動の充実、機関紙に対する積極的な態度等多くの意見を附加して承認。

次で執行機関構成に関する件。今まで委員会は各班の責任者によって部門に分けずに構成されほとんどそれらの事務を書記局に負はせられてゐた、更に本年度の方針を活潑に生かすためには委員会の構成を組織部、教育部、移動活動部、財政部、調査部の専門部に分け委員会に直ぞくして活動する事が必要である。可決。

プロレタリア音楽研究所設置の件。同盟の拡大強化のために組織的な機関を必要とする。具体的な事は新委員会一任。可決。

緊急動議、プロ音楽研究所設置のための財政的基礎を確立するため楽器購入基金募集を提案、実行方法は新委員会一任、この席上に於いて帽子をまはして一円五十六銭集まる。

新役員選出の件、撰衡委員により、雨路木、関、河野、原、福田、宮田、山本、の七名が選出された。

ここにP.M才一回大会は終了した。同盟員の数が少ないとは言へ、非常に活潑に討論が行はれ、本年度に於ける果敢な斗争の意気を示して盛会裡に散会した。

暑さにも負けず斗はれてゐる移動活動の跡を見よ

「戦旗の夕」

おれたちの親しみ深い雑誌戦のために文化団体の合同出演が持たれたが、P.M出演の斗争歌合唱は独唱も禁止だ。こんな時我々はだまってゐて好いのか、他のどこでもうたって来てゐる歌さへうたはせない、勿論ただうたふだけが意義ではないが、うたふ事によって意義あらしめるのが我々の任務だ。九月十九、二十日に再び持たれる事になってゐる、その時こそ我々は禁止を引き破らなければならない、今度はその他にハーモニカ合奏も附け加へる予定だ。

「関消聯講習会」

全国から集まってゐる講習生の要求で、科目の中に斗争歌の練習を加へてゐたのに二つ三つの都合で日を変更したりしたので充分ならず教習時間が少なかったにも拘らず、たった二日間で沢山の斗争歌を元気よく完全におぼえてしまった。

「山下鉛筆工場スト」

では一時少年少女工の男り二、間で四つのうたをおぼえ込んでしまふ元気さだ。此の辺の大衆党のうたふおそろしく時代ばなれのしたうたをけって、団結の力が声高らかにおやぢのおなかをふるはせてゐる。おそれをなした大共がP.Mの同志を引っぱってゐったが一週間で出て来た。

「映従××スト」

ここではプロキノの伴奏のためにめった持ってゐった斗争歌を映画館の楽手諸君によって伴奏された。ラッパ、クラリネット、ヴァイオリン、セロ、等すで演奏すると一層勇壮活潑に、効果的である事を切実に教へられて来た。我がP.M器楽班で当然具体化する自然器楽編成法として、P.M器楽班の研究すべき緊急の仕事である。

其の他、西郊消と組合等のピクニックに六七ヶ所参加してそれぞれうたを教へたり、一諸にうたって来た。農村へは「人形クラブ」と共に埼玉、府下のピオニールを対象に三日間許り勇敢に苦しい思ひをしてP.Mから一人出動した。

P.M組織の拡大強化へ。

樂器購入500円基金募集!!

新部員決定さる

新たに五つの専門部によって構成された中央委員会の各部の部員が中央委員会で決定された。

組織部、——原(長)、河野、

移動活動部、——福田(長)、新島、中野、

教育部、——露木、峯、

調査部、——安田(長)、原、石井、滝谷、

財政部、——関(長)、青柳、安田、

書記局、——山本、安田、韓、新島、

委員長露木、書記長山本、

合唱班の報告

我々の活動が旺盛になればなる程定期的練習が重要になる。我々は前に出動の批判を適確に敏速に行ふ事を提唱したが、そのためには定期の練習日には必ず出席して自分自身出動したものは進んでその自己批判を他のものと共に大衆的に批判し合ふ、又たとへ自分が出動しなくても他の誰かが出動したその新たなる経験から次の我々の出動に備へる用意を常に心掛けてゐなければならないのだが最近の練習はどうだ、いつも出席するのは全じ顔振れだ。ただ発声練習をするばかりが練習ではない。出動のある時は殊に緊急の場合、練習に誰れが出席してゐれば行けるそのをムざく行かれなくなったやうな場合さへある。合唱班員は必ず練習に出て、我々の活動を充実せしめよ。

器楽班の報告

器楽班に於いても合唱班と全じ様な事が言ひ得る。楽器もあり、メンバーもゐる、それでゐて練習が一向活動的でない、それが何に原因してゐるか直ちに何らかの方法を講ずべきである。最近とり上げられた音楽サークルの問題等に就いて殊に器楽班が多くの関係を持つやうになるだらう、さう言ふ場合の用意は出来てゐるか。ヴァイオリンの音楽サークル、マンドリン愛好者のサークル、又はハーモニカのサークル等々出来得る可能性がある。だからたとへヴァイオリン弾きでも、マンドリン弾きでもプロレタリア的な曲がないとか人が少ないとか練習に出ても仕様がないと言ふやうなあやまった考へは速時すて、積極的に活動せよ。合唱の練習が定期にもたれてゐる、こゝに種々の弦楽隊体議がなされるならこれに参加するのも一方法である。

作曲班の報告

大会に於いても指摘されたやうに作曲活動は同盟の上に課された重要な仕事の一つだ。然しながら生産能力とぼしいのは許さるべき事でなく、もっと生産的であって好い。我々の出動の経験は往々にして同盟の闘争歌乃至歌謡曲がものすごすぎる事を聞く、特にピオニールのためのうた、農民のうた等に於いてである。海外に於けるプロ音楽の紹介も必要であるが、日本に於ける農民歌の研究はより現実に必要とされてゐるのである。もっと広汎な視角を持った作品の生産と共にさう言ふ小品な作品の研究、童謡、民謡の研究を持つ必要がある。次にサークルの問題に関して、すでに一二の例を見る様に労働者の中から高度の音楽知識、いては自分から作曲して見たいと言ふ労働者が出て来る様になるのは当然の事だと思ふ。さう言ふ作曲家志望の労働者に対する働きかけも作曲班のメンバーの仕事である。

研究会活動を旺盛にしろ!

闘争の一年を経過して、我々の存在を大衆は知るやうになり、ナップ他同盟並に各文化団体と伍して我々の前には最近多くの重要な問題が与へられるやうになった。組織問題、等がそれである。然しながら我々はそれらに就いて充分に知り理解し実行にうつして来たか。この事はあながち組織問題のみに関してではない、随時におこる問題に於いてもさうである。例へばピオニールに歌を教へる場合、自分がそれを如何に実行すべきか、何らかの方針が立てられなければならない。正しい見解を下すためには大衆的に討論するのが一番好い。小学校児童にとって唱歌がどんなに致命的な害悪を注入してゐるか等の随時的な討論題目をとらへて、我々は研究会を持つ方法も知ってゐる。この研究会は性質によっては大きな形をとる場合もあるだらうが、合唱の練習の後でも持てるだらうし、時々刻々におこる我々の間の問題を敏速にとり上げて常に何物に対しても備へられてゐなければならない。問題は、いくらでもころがってゐると思ふ。場合はそれぞれ適当の講師を招ぶとか、資料の提供をあほぐとかの方法はいくらもある。さしあたって童謡研究会。農民歌研究会。あるいは各班の専門技術的な研究会が必要だ。誰かがやって呉れるだらうなんてのんきに考へてゐては我々の仕事は出来ない。自主的な研究会活動を旺盛にしろ。

書記局ヨリ

★帰省してゐるものが多いので東京に残った同盟員は出動にテンテコマヒだ。直ちに帰へって部署につけ。

★財政部が確立したので、同盟費その他厳重にとりたてる。八月分直ちに納めろ。

★大会後新たなる同志を三名迎へた、合唱班に有川、大保、武者氏。有川武はヴァイオリンもやる。

★出動予告 ナップ綜合移動劇隊より出動中にたほれたPROTの草[illegible]の葬儀に「葬式のうた」をうたふ。三十日の予定。「戦旗の夕」第二回を九月十九、二十日、弦、ハーモニカのメンバーは練習を更に活溌にして出演だ。